



ほにぼん

# 本庄市周辺地域の近代化遺産



利根川や烏川・神流川を挟んで群馬県・埼玉県両県には絹産業遺産が多く残されています。本庄市内にも旧本庄商業銀行煉瓦倉庫などの優れた遺産が残されています。また日本の近代化にあたり本庄市域でも貴重な近代の遺産が存在します。旧本庄警察署や児玉町旧配水塔・間瀬堰堤等（裏頁参照）、当時の様子を今に伝えています。

世界遺産に登録された富岡製糸場と絹産業遺産群。我が国が世界に誇る近代化を象徴する遺産群です。それにも匹敵する遺産として、競進社模範蚕室が本庄市に残されています。

日本の近代化に大きな役割を果たした養蚕改良普及結社である競進社。その残された遺産が競進社模範蚕室です。

## 【競進社模範蚕室見学案内】

休館日 毎週月曜日（祝日の場合はその翌日）  
年末年始

開館時間 午前9時より午後4時30分まで

## 【アクセス方法】

- JR高崎線本庄駅下車  
駅南口より朝日バスを利用  
(乗車時間約20分)  
児玉駅入口下車 徒歩5分
- JR八高線児玉駅下車 徒歩5分

- 関越自動車道  
本庄児玉インターチェンジより  
国道462号秩父長瀨方面へ自動車15分程度

【所在地】 埼玉県本庄市児玉町児玉 2514 番地

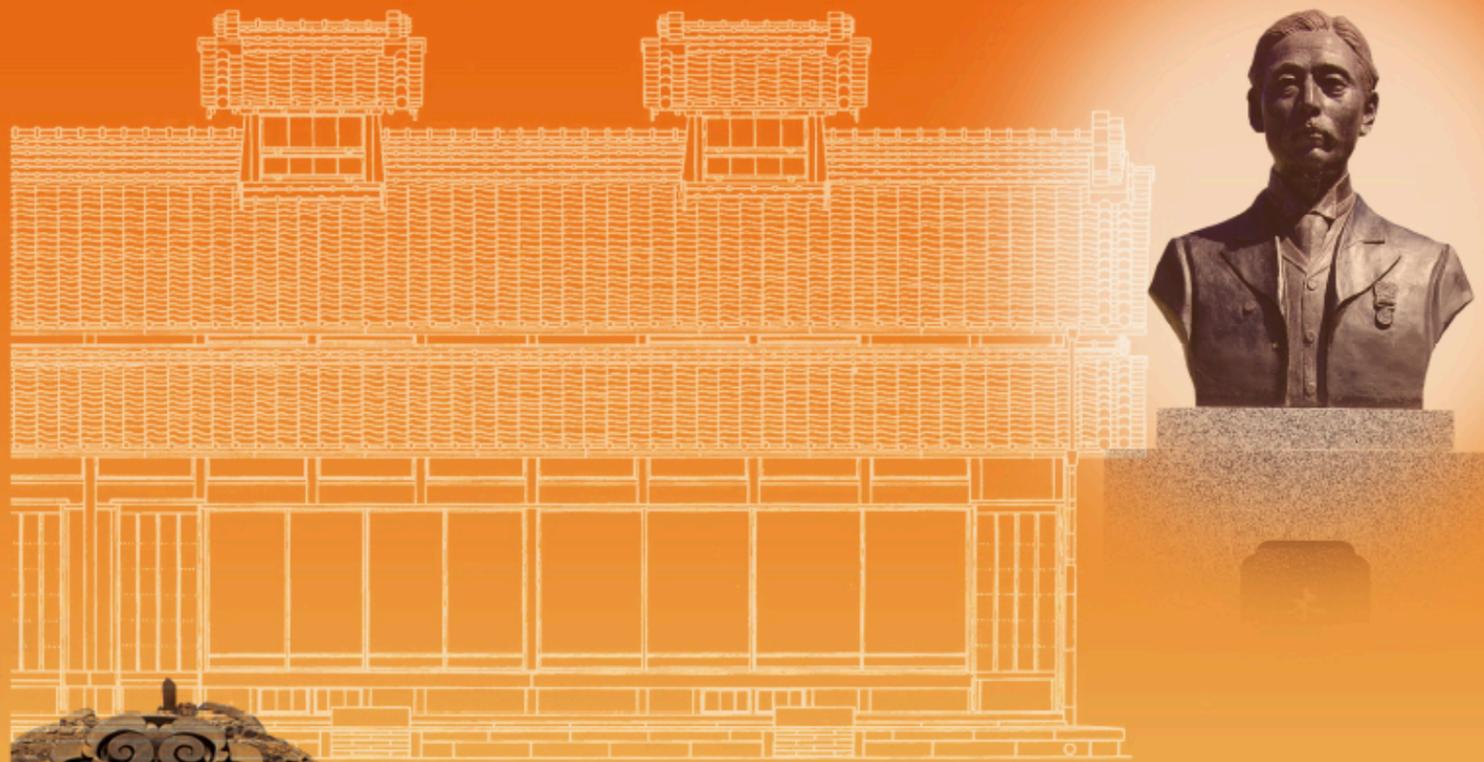


## 競進社模範蚕室案内図



## お問い合わせ先

本庄市教育委員会文化財保護課 〒367-8501 埼玉県本庄市本庄 3-5-3  
☎ 0495-25-1186 〆 0495-25-1193 Eメール bunkazai@city.honjo.lg.jp



# 本庄市の近代化遺産 競進社模範蚕室と木村九蔵



# 日本の近代化を支えた養蚕改良競進社と木村九蔵

●●●現代に伝えられた偉大なる遺産 競進社模範蚕室●●●



昭和初期の競進社と競進社蚕業学校



## 競進社の概要

競進社は木村九蔵が明治10年(1877)に児玉郡新宿村で周辺の若者たちと結成した養蚕改良競進組をその始まりとします。九蔵は明治5年に新しい飼育法「一派温暖育」を考案し、それに賛同する者達と養蚕改良結社を組織しました。次第に賛同する者が増加し、競進組の拠点であった九蔵の自宅では手狭となり、同郡児玉町に土地を求め、事務所と伝習所を設置しました。この時に組織を改めて養蚕改良競進社としました。

競進社は蚕種の改良、養蚕飼育の指導、指導者の派遣、共進会の開催など積極的に活動し、その評判は非常に高く、当時、日本の輸出品の大半を占めた生糸の生産に多大な貢献を果たしました。

九蔵は明治27年(1894)に自ら設計した蚕室を競進社伝習所内に建設し、この蚕室は後に「模範蚕室」と呼ばれるようになりました。

そしてこれからの養蚕を発展させるためには、技術の指導だけではなく学問的教育も重要と考え、明治30年に伝習所を競進社蚕業講究所と改めました。同32年には学制の改正により、競進社蚕業学校に改めています。その後、幾多の変遷を経て、県立児玉白楊高等学校となり現在に至っています。



## 木村九蔵の生涯

木村九蔵は弘化2年(1845)に上州緑埜郡高山村の高山寅蔵の五男として生まれました。幼い頃より養蚕に興味を持ち、蚕の飼育を行っていました。成長して武州児玉郡新宿村の木村家を再興し、明治5年(1872)に「一派温暖育」を考案、明治10年(1877)には周辺の仲間と共に養蚕改良競進組を組織し組長となりました。明治17年(1884)には競進組の組織を拡大させ養蚕改良競進社とし、児玉町(現本庄市)に養蚕伝習所と事務所を開設しました。

また政府より欧州視察を命じられ、ヨーロッパの養蚕事情を視察し、多くの知見を得ました。帰国後、明治25年(1892)に本庄町に日本初の蚕種貯蔵庫を建設し、明治27年(1894)には伝習所内に「一派温暖育」に適した模範蚕室を建設し、同30年(1897)には競進社蚕業講究所を設置しました。翌年病気のため死去しましたが、養蚕の改良と普及、さらに教育に一生を捧げました。なお、世界遺産の「高山社跡」の高山社社長の高山長五郎と本庄市の競進社社長の木村九蔵は実の兄弟であり、高山社・競進社共に日本の近代化に大きな役割を果たしています。

## 競進社 模範蚕室の構造

埼玉県指定文化財



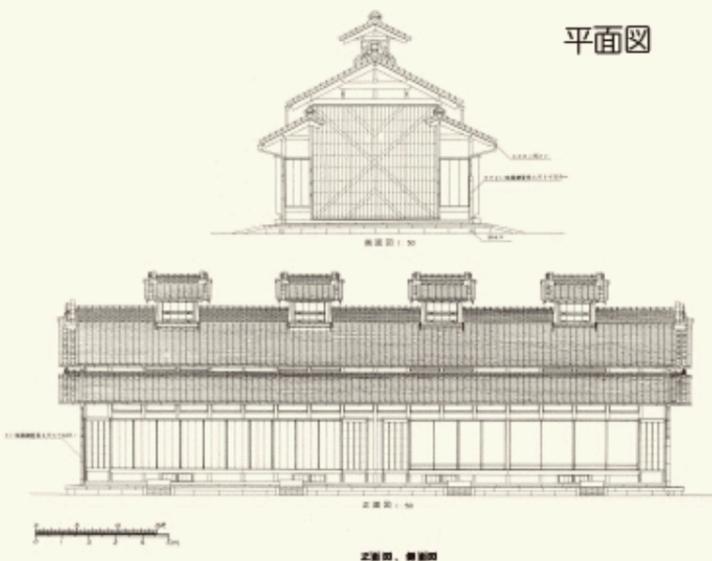
中二階



蚕棚

中二階建切妻棧瓦葺高窓付 明治27年(1894)建築  
建物横幅が約22メートル、奥行き7メートル。高さ9メートル  
4連室構造、各部家に煉瓦積炉2基、床下に吸気口あり。

## 平面図



## 競進社模範蚕室の特徴

競進社模範蚕室は木村九蔵が設計した蚕室で、九蔵が考案した飼育法の「一派温暖育」に適した構造を持っています。

- 火力を用いる(温度・湿度管理)  
各部家に2基の煉瓦積み炉を配置。床下を版築(突き固め)とする。
- 換気に留意する  
屋根に高窓(越屋根)4基を設置。天井は小間返しとする。  
床下に吸気口、一階床にも通気口を設置。
- 防寒や防暑に配慮  
二重の障子、廊下を四周に配置、西日への対処。
- 作業効率に適する  
廊下を四周に配置。中二階の設置。4連室。東西4ヶ所の入口。
- 室内の明るさにも配慮  
高欄、腰欄間の設置。



## 本庄市内に残る近代化遺産群

- ①緒井家住宅(埼玉県指定文化財)  
明治13年の建築と推定される。洋風と和風の融合した建築。
- ②日本庄警察署(埼玉県指定文化財)  
明治16年の建築。コリント式西洋建築。
- ③日本庄商業銀行煉瓦倉庫(国登録有形文化財)  
明治29年建築。藁担保倉庫として機能。
- ④児玉町旧配水塔(国登録有形文化財)  
昭和6年、児玉町水道の配水施設として完成。県内唯一の塔型配水塔。
- ⑤日本庄郵便局(国登録有形文化財)  
昭和9年の建築。本庄郵便局二代目の局舎。
- ⑥間瀬堰堤及び管理橋(国登録有形文化財)  
昭和12年建築の東日本最古の農業用重力式ダム。児玉用水の貯水池間瀬湖のダム。

